

# 「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里南小学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

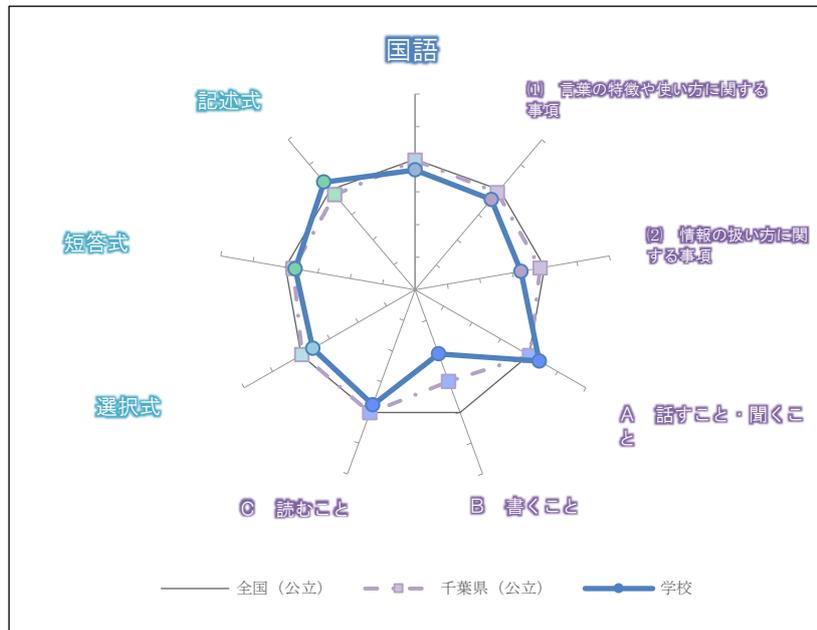
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



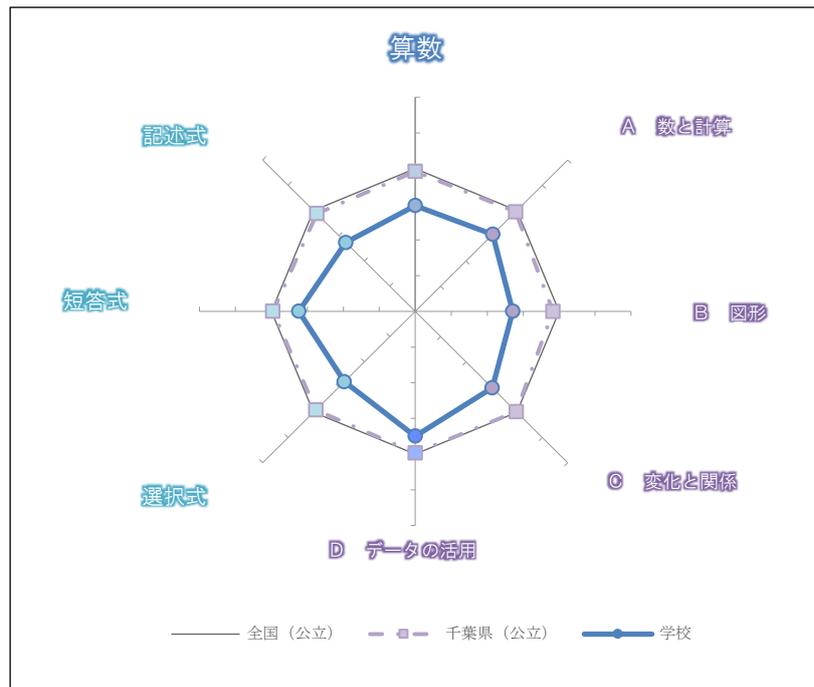
#### 【特徴と現状】

- 例年、無解答率が高いことが本校の課題です。今年度は、無解答率がとても低く、ほとんどの問題で全国や県の無解答率を下回っていました。また、記述式の問題であっても、しっかりと解答していました。
- 「書くこと」の「文章とグラフから分かることを60文字以上、100文字以内でまとめて書く」問題の正答率が低かったです。これは、文章を書くことに慣れていないことや、自分の考えをまとめて書くことに課題があると考えられます。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、ほぼ全国平均と同じ正答率となっています。
- 「思考・判断・表現」の問題についても、平均的に正答することができました。

#### 【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしていきます。
- 「読むこと」については、文章の要点をつかんだり、必要な情報を選んだりすることを、様々な場面で設定し、読み取りの力が付くように指導していきます。
- 「書くこと」については、視写を行ったり、要点を簡単にまとめる文を書いたり、日記や自分の思いを書いたりする活動を積み重ねていき、書くことに慣れるようにしていきます。
- 「話すこと・聞くこと」については、スピーチやペアトークを行い、自分の思いを伝える活動を積み重ねていきます。
- 毎日の家庭学習で、漢字練習や音読、読書、日記等を継続して行うよう児童に指導しています。ご家庭でも、ご支援お願いします。

## 算 数



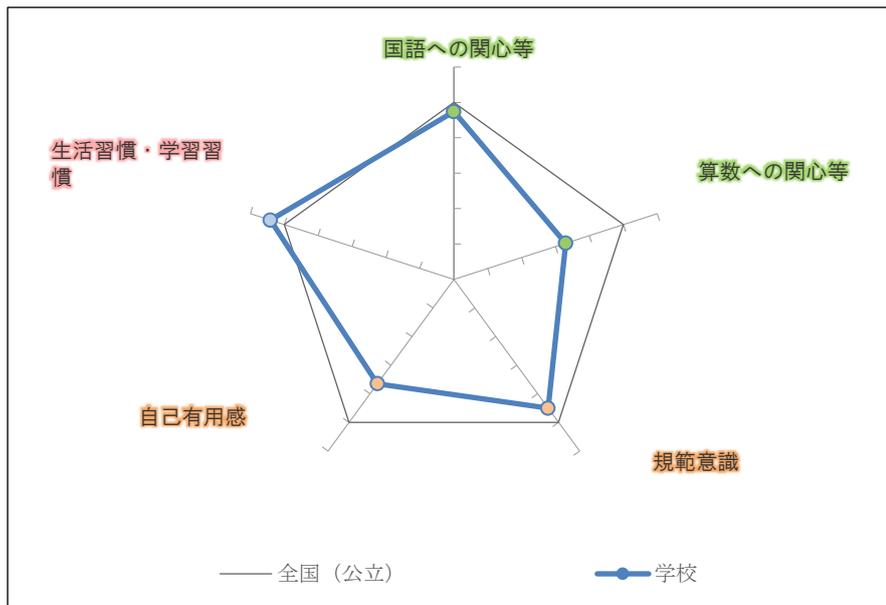
### 【特徴と現状】

- 「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のどの領域も全国平均を若干下回っていますが、全国平均と大きな差はありませんでした。
- 図形領域を苦手とする児童が多く、正答率が低くなっています。  
面積や体積の公式は覚えていても、図形の意味や性質をしっかりと理解していないと考えられます。
- 分配法則や計算の順序といった、計算の基本が理解できていない児童多く、四則計算ができて、解答に結びつかなかったと考えられます。

### 【改善方策等】

- これからも、ドリル学習や100マス計算などを通して、基礎基本となる計算力が身に付くように努めていきます。
- 児童同士で考えを交流し、深め合う活動を積極的に取り組み、公式や解き方を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」といった思考の過程も大切にしていきます。
- 毎日の家庭学習で、ドリルやプリント学習を継続して行うよう児童に指導しています。  
ご家庭でも、ご支援お願いします。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 基本的な生活習慣（朝食を食べているか、決まった時間に寝たり起きたりしているか）についての質問に、否定的な回答をする児童が多くみられます。朝食については、約10%の児童があまり食べていない、5%の児童が全く食べていないことが分かりました。
- 自己肯定感が低く、「自分には、よいところがあると思いますか。」については、約30%の児童が否定的な回答をしています。幸福感について問う質問にも、10%の児童が、あまりないと回答しています。
- 「読書は好きですか。」に80%以上の児童が肯定的な解答をしています。国語の得点が良かった一因となったと考えられます。
- 算数の学習への意欲が低く、苦手と感じる児童が多くいることが、分かりました。そのため、60%近くの児童が「算数の勉強は好きですか。」に否定的な回答をしています。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか。」の問いにも、約40%の児童が否定的な回答をしています。

### 3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めていきます。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させていきます。また、授業はもちろんのこと、学校活動全般において、友達同士がお互いを認め合う雰囲気を作れるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきます。

家庭での生活習慣・学習習慣は学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身に付けられるように、引き続きご支援ご協力をお願いします。